

神楽名

おおかわち 大河内神楽

伝承地

大河内地区
しいばそん
椎葉村大河内

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

大河内神楽保存会
代表 椎葉賢二



綱切り

◆ 神楽の概要・由来・その他

大河内神楽が伝承されている宮崎県椎葉村大河内地区は、椎葉村の南部に位置し、南は西米良村にしめらそんと接する。大河内の夜神楽は、大藪・合戦原・矢立・大河内の4つの地区の輪番で奉納されており、同じ祝子によって舞われるが、各地区に異なった特色を見ることができる。

大河内神楽は、地区の鎮守である大河内八幡神社にて奉納される。大河内各地区の神社の小祭りこまつりは半夜神楽だが、4年に一度、大河内八幡神社で開催される夜神楽は「注連の願」と呼ばれ、注連が立つ外神屋にて「綱切り」等の特別な番付が舞われる。内神屋では、天井中央につるされた舞雲まいぐも（天蓋）に繋がる引綱ひきつなを操り、神楽を行う間は終始揺り動かし、神々を斎庭ゆにわに勧請する。

民俗芸能研究の第一人者として知られる本田安次氏が、昭和37年（1962）に、大河内神楽の大師匠、中竹政蔵氏に話を聞いたことがきっかけとなり、椎葉神楽の発掘に繋がったという。

◆ 芸能の機会・場所

- 大河内神楽大祭（注連の願）... 12月第2土・日曜日（大河内八幡神社）
- 例祭（小祭り）... 12月第1土曜日（大河内八幡神社）

◆ 演目一覧

しゅばつ けんせん 神事(修祓・献饌)	いたおこ 板起し			
ありなが みこうや 有長・御神屋	いちかぐら 一神楽(花の手)	たすき 一神楽(襷の手)	つるぎ 一神楽(剣の手)	じわり 地割
たからわた 宝渡し	にちがつ 日月	花の手(子ども)	きじん 鬼神	いなりかぐら 稻荷神楽
しばひき 芝引	みくま(子ども)	たちから かみ じゅう 手力(上の重)	だいじんかぐら 大神神楽	ととり 戸取
ししまい 猪舞	もり 森(矢の手)	しも じゅう 手力(下の重)	弓の手	たるめん 樽面
しばこうじん 芝荒神	おきえ	いせ 伊勢の神楽	火の神	ごつてん 牛頭天
かんすい 神崇	とし かみ 年の神	し め ひ 七五三引き(外神屋にて)	つない 綱入れ(外神屋にて)	樽面
つなこうじん 綱荒神	つな き 綱切り(外神屋にて)	猪舞	かみおく 神送り	

※平成28年（2016）12月に奉納された演目に基づく

◆ 演目の特徴

神楽序盤の神事「^{いたおこ}板起し」では、^{さかき}唱え言とともにまな板の清め祓いで^{さかき}榊の葉を切り散らした後、^{ししまい}猟師から奉納された猪肉と鹿肉を切り串に刺し、それを全員で食す。「猪舞」は、中盤と終盤の二度に^{よしゆく}渡り奉納される番付で、猪狩りの様子を面白おかしく再現し、山の神への感謝と豊猟を祈願する^{よしゆく}予祝儀礼である。この「猪舞」は^{めらやま}椎葉村内の他の地区では見られないが、隣接する米良山の神楽には同様の番付が多く存在し、夜を徹した神楽の締めくくりに位置するところなど、^{しゅりょうしんこう}村内でも特に狩猟信仰と密接に結びついている神楽であるといえよう。

岩戸番付「^{たちから しも じゅう}手力（下の重）」では、“おつきさん”と呼ばれる子どもが演じる^{あまてらすおおかみ}天照大神を引き出す。

「^{し め ひ き}七五三引き」「^{つな い}綱入れ」「^{つなこうじん}綱荒神」「^{つな き}綱切り」など、^{し し ま い}注連の願神楽のみで奉納される番付もある。この綱は^{ゆにわ}斎庭に乱入する大蛇で、「綱荒神」で荒振る^{ししめ}藁蛇の神と^{が ん}神主との問答によってお鎮まりになり、^{ししめ}真剣で藁蛇を切る「綱切り」で祓い清められる。

◆ その他の特徴

- 面...大河内4地区で面は共有されている（大河内八幡神社保管）
鬼神、芝引、手力、猪舞、戸取、樽面、荒神、めしょう面 等
- 楽...太鼓、^{てびょうし}笛、^{かね}手拍子（鉦）、^{がくいた}楽板
- 装束...^{まいぎぬ}白の舞衣、^{じんぼおり}陣羽織、^{かりぎぬ}袴、^{えぼし}狩衣、^{まいがさ}烏帽子、舞笠、鉢巻、金のケン（五角形の紙）等
- 採り物...^{さかき}鈴、^{ごへい}扇、^{たすき}榊、^{めんぼう}襷、^{めんぼう}面棒、六尺棒、弓、矢、刀、丸盆、樽 等
- 文書...「言句全集 大河内神楽」

◆ 伝承の現状・課題

子どもたちは幼い頃から夜神楽に参加し、せり唄を覚えて賑やかに囃す。平成元年（1989）に大河内子ども神楽の発足以来、大祭だけでなく、椎葉村内の子ども郷土芸能発表大会や平家まつりなどで神楽を披露している。現在の祝子15名のうち、半数以上が子ども神楽を経ており、子ども神楽が大河内神楽の継承と持続可能な地域づくりに繋がる活動となっている。



板起し



手力（下の重）



猪舞

写真提供 前田博仁（宮崎民俗学会）

宮崎県教育委員会 文化財課 令和4年（2022）3月発行